

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

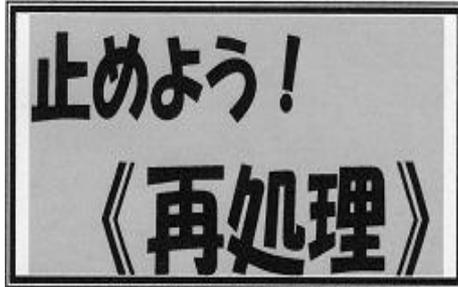
郵便振替 02240 5 -102650

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



天恵の海を守ろう!

2008 (平成20)年

5月 29日

第54号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

豊かな三陸の海を守る市民集会 in みやこ



高校生による一心太鼓



～放射能を海に流さないで～

約四百人が結集し 三陸から発信

「放射能を海に流さないで」豊かな三陸の海を守る市民集会 in みやこが、五月二十五日(日)宮古市民文化会館ホールに約四〇〇人を集めて開催されました。当日までに寄せられたメッセージは三四通。協賛団体は漁協や市民団体、労組など約四十。壇上や壁には大漁旗(約三〇枚)や、布メッセージ(約六〇枚)が飾られ三陸住民の共通の願いを結集した集会となりました。ビデオ上映のあと、市内工業高校生による「一心太鼓」の力強く見事な演奏がなされ、開会が宣言されました。挨拶に立った田村剛一実行委員長は「再処理工場の放射能によって豊かな三陸の漁場に危機が迫っている。このことを日本中に訴えるためにこの集会を開催しました」と語りました。このあと、各界の人々が壇上に立ち、次々に「放射能垂れ流しストップ」を訴えました。

人や市民団体からも届けられました。「無関心」との闘いが最大の課題

来賓あいさつ

来賓は四人でしたが、代表して挨拶した高橋博之県議会議員(花巻)は「三陸の海の放射能汚染との闘いは、結局のところ国民の『無関心』との闘いです。本日の新聞が伝えている『六ヶ所工場の真下に活断層』のニュースは、本格稼働を止めるために神が与えてくれたチャンスかも知れませんが、未来の人々の生きる権利を奪う事は許されません。諦めずに全ての人の良心に訴えて無関心、無責任をなくしてゆこう」と語りました。

放射能汚染規制が「ザル法」状態である

基調報告

田村剛一実行委員長から基調報告がありました。「私たちの運動は三陸の海を守る」という基本原則に立って進められています。再処理は、閉じこめられていた放射能をわざわざ切り刻んでブルトニウムを取り出すのであって原発とは違います。六ヶ所工場の海洋への放射能投棄は二年間で一九〇兆ベクレルで、一九

「小 (困る) の旗」で入場

1847年と1853年の2回にわたる南部藩海岸部三閉伊の農漁民の一揆は、全住民がこぞって参加し、団結の力で藩の重税政策を跳ね返しました。今回の放射能は、重税より、もっと「小！」のです。

各界からメッセージ 集会には岩手県選出国會議員五氏や「公共事業チエツクの会」議員一氏、県議會議員二氏、さらには、岩手県内沿岸、内陸の市町村長十一氏から連帯のメッセージが届けられました。県消費者団体連絡協議会会長、青森県保健医協会会長、岩手県高教組委員長、同退職組合員連絡会会長や、水口憲哉氏などこれまで連帯して運動を進めてきた個

九三年に日本中大騒ぎして抗議したソ連海軍の日本海投棄の約二・五倍の量です。私は青森県庁に出かけて三陸の海に放射能を流さないでほしいと要請しました。その時青森県の担当者は「陸奥湾には流せないほどの放射能」である事を認めました。私たちの請願は、岩手県内二六市町村議会で採択されました。イザというときに岩手県民は連帯して大きな力を発揮します。「三閉伊一揆」のようにみんなの力で、必ずや、放射能垂れ流しを止めさせ勝利しよう。

各地で運動が前進

市民団体報告

永田文夫さん(三陸の海を放射能から守る岩手の会)

直下に活断層がある所に再処理工場は建てられませんが、昨年十月から十二月までのモニタリングについて五月一日、青森県環境評価会議が開催され、報じられています。原発の規制値の二千倍もの放射能が海に連日流された時期ですが、トリチウムが東通原発海域で6〜7倍あったという報告やクリプトンの雲が工場付近に滞留したと報告されています。佐藤幸恵さん(わかめの会・仙台市)

自然豊かで魚の美味しい山田は私の生まれ故郷。人と

人の命のつながりを壊す海の放射能汚染に反対します。望月達也さん(子どもと海と空の会・花巻市)

新聞に意見広告を出すために頑張っています。岩手日報や青森・宮城の新聞に載せました。次は、首都圏です。風が変わって、止まって良かったネ」と言えるまで頑張りますよ

デビット・木下さん(サーフライダーファンデーションジャパン・東京都) 世界の海を回ったが三陸の海は世界一きれい。ハワイでもこの問題が討議され始めました。国会をみんなで取り囲む気込みで頑張りますよ。

意見発表

伊藤隆一さん(重茂漁協組合長)

重茂漁協は海を守るために署名を集め、東京集会に参加し頑張ってきた。私は先祖から受け継いだ海で働らき生きてきた。例えば放射能でガンになって死ぬと言われてもどこにも行けない。三陸で生きるしかない。

遠藤公雄さん(日本野鳥の会) 日本の秘境といわれた三陸の鳥たちは危機にある。守りたい。

吉水裕信さん(田老漁協) 平成十八年二月以来学習会や署名集め、要請行動を続けてきた。このような危険な事業をなぜ国は許可したのだろうか。 田代陽子さん(いわて生協・宮古地区) 六ヶ所ラプソデー上映や

決議・署名運動に参加してきた。生活者として不安でしかたがない。 佐々木富作さん(漁業者)

ホタテの貝毒の「操業停止」のように、「ホタテなどの放射能の規制値」を早急に定め協定を結び安全を確認して営業を行うべきである。 須賀原千工子さん(母親代表) 母親として遺伝子を傷つける放射能の垂れ流しは絶対に反対です。 宇部京子さん(久慈市) 詩・朗読

地球の鼓動

ちいさな地球のちいさな海を わすれないで

ああ地球の あおい海を おぼえていてね

まるい地球の まるい海を いつまでも

海にはいない 医者も弁護士も わすれないでね ぼくたちのこと

地球の鼓動 きこえますか?

(理論社刊『リンドリンド』がとまらない』所収)

菊地和三さん(マリントリーズム) 人工放射能は流してはならない。残すべきはきれいな三陸の海である。

阿部金一さん(大浦漁協組合)

(長)

今日の集会に消費者の方々が詰めかけてくださった。感銘を受けた。小学四年生からイカ釣り船に乗り、マグロやシャチが回遊する海を見てきた。三陸の海は宝である。放射能は絶対止めよう。 海を守る事は今を生きる私たちの使命 集会宣言

「小」の旗を先頭に大漁旗やプラカードを掲げた一団が入場し壇上に並ぶ中、山田町議木下志き子さんが「海に放射能を捨てないで下さい。放射能放出を禁ずる法律を作ってください。再処理本格稼働を認めないでください」という集会宣言を読み上げ全員で採択しました。最後に、全員で「海を守るうー」のシュプレヒコールを行い閉会しました。

「六ラブ・サミット」(準備会) 盛岡で開催



宮城や岩手の各地で「六ヶ所ラプソデー」上映で知り合った人達が宮古市民集会の前日盛岡に集まりました。市内大通りや材木町よ市で「ストツプ再処理」のチラシ撒きを行ったあと、自慢の料理を持ち寄り夕食懇親会を開催しました。翌朝、宮古に向かいました。

「ガラス固化作業は中止せよ」 原子力安全・保安院へ 全国151市民団体

六ヶ所工場に溜まった「高レベル放射性廃液」の危険性を強く指摘。専門家の「活断層存在」報道。緊急対策必要。



原子力安全・保安院交渉

「ガラス固化技術の根本的な欠陥が明らかになった」として、「アクティブ試験を憂慮する全国市民の会」(呼びかけ、美浜の会など十四団体・賛同一三七団体)は、五月十日午後三時から一時間

に渡り経産省原子力安全・保安院への要望書提出交渉がなされました。市民約二五人と、大島九州男(民)、近藤正道(社)議員など六人の国会議員が出席しました。

市民側から「付着した白金族は完全に除去出来たのか」「高レベル廃液濃縮器がない設計で安定したガラス固化が出来るのか」「一〇〇度以下で出来た不良品はどう管理するのか」などの質問が出されましたが、応対した金城慎司課長補佐は明確な回答が出来ませんでした。さらに、「ガラス固化が停まったもとの燃料のせん断だけが進むことによつて、この世で最も恐ろしい高レベル放射性廃液が溜まる事の危険性について多くの出席者が強く訴えました。しかし、金城氏は「ガラス固化は安全上の問題ではない」という姿勢を変えませんでした。

五月二五日に全国の新聞に「六ヶ所工場真下に活断層の存在」という見出しで東洋大学の地形学者渡辺満久教授の研究が大きく報道されました。「再処理工場に溜まる危険な高レベル放射性廃液」の問題は猶予ならぬ緊急の課題です。